

## クリ二重接ぎ苗木の当年育成法

強樹勢のクリ品種を既存の低樹高栽培〔兵庫方式〕で栽培管理するには、わい性（大きくならない性質）を付与した苗木の植栽が有効である。そこで、中間台木<sup>ななたて</sup>※として、わい性品種「七立」を選定するとともに、二重接ぎによる苗木の当年育成法を開発した。

### 内容

本県のクリ主要品種である「銀寄」<sup>ぎんよせ</sup>は、強樹勢で、樹が高くなりやすい性質があることや、新規栽培者の増加や高齢化が進む中、より省力的で平易な低樹高栽培技術が求められていた。そこで当センターでは、わい化に有効な中間台木品種の選定と合わせて、通常2年かかる二重接ぎ苗の当年育成法を開発した。

#### (1) わい化に有効な中間台木品種の選定

「七立」を中間台木として作成した「銀寄」の苗木（写真1）は、接ぎ木4年目になると慣行苗と比べ、穂木の基部径が約60%、総新梢長が約30%に抑えられた（表）。樹冠の広がりや着穂数は慣行苗と同程度で、台木や穂木と接ぎ木親和性も高かった。

#### (2) 二重接ぎ苗の当年育成法

中間台木及び穂木品種の休眠枝を1月下旬～2月上旬に採取し、冷蔵保存（0～2℃）する。3月中下旬に中間台木品種へ穂木品種の一芽を切り接ぎした「接ぎ穂」（写真2上）を作成し、

表 中間台木品種の違いが「銀寄」の樹体生育に及ぼす影響

中間台木品種	幹周(穂木部) (cm)	総新梢長 (cm)	樹高 (m)
七立	8.1	384	1.5
相生	11.4	1284	1.9
枝垂れ辰野1	11.4	857	1.8
無	13.2	1283	1.9

注)上記3品種を中間台木とし、穂木品種「銀寄」を切り接ぎし、台木に接ぎ木した苗木(接ぎ木4年目)を試験に用いた。

湯煎で溶かしたパラフィンワックス（融点59℃）で全体を覆い（写真2中）、冷蔵保存する。4月上中旬に中間台木基部を数ミリ切り取った後、水を張った容器内に基部を下にして水揚げ（24時間・15～20℃）させ、圃場に育成中の台木に接木する（写真2下）。

#### 普及上の注意事項

樹勢の弱い品種では収量が低下することが懸念されるため、本技術は、「銀寄」や「美玖里」<sup>みくり</sup>などの強勢品種への適応が望ましい。

※中間台木：台木と本来の栽培品種との間に入れ、わい化等の特性を付与する台木

黒田 英明（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）



写真1 当年育成した二重接ぎ苗

写真2 接ぎ穂の作成と二重接ぎ